

令和2年第27回定例公安委員会会議録

開催日時 令和2年10月15日(木) 午前11時10分～午後2時40分

開催場所 警察本部

第1 定例会議

1 開催時間 午後1時30分～午後2時20分

2 出席者

公安委員会 衣笠委員長 勝部委員 久本委員

警察本部 津田警察本部長 川島警務部長 柴田首席監察官
河本生活安全部長 長谷高刑事部長 保田交通部長
谷村警備部長 本庄警察学校長 濱口情報通信部長
細田警務部参事官

(事務局等～松本公安委員会補佐室長、中田補佐、総務課員)

3 議題事項

4 報告事項

- 鳥取県議会9月定例会の結果(警務部)
- 公文書開示請求等の状況(令和2年7月～9月)(警務部)
- 女性職員活躍推進セミナーの開催結果(警務部)
- 初任科生に対する非違事案防止教養の実施(警務部)
- 鳥取市叶地内における持凶器強盗被疑事件(刑事部)
- 災害時における発動発電機の調達に関する協定の締結(交通部)

(1) 鳥取県議会9月定例会の結果(警務部)

警察本部

県議会9月定例会の会期は、9月11日から10月8日までであった。

議案は、1件可決された。

代表質問は、県議会自由民主党と会派民主が質問に立ち、それぞれから警察に対しても質問があった。

県議会自由民主党からは、鳥取市選出の島谷議員より3点質問があった。1点目は、「ICTを活用した災害資機材の充実」について質問があり、本部長は、「広域緊急援助隊等の高度な救出救助能力を有する部隊により捜索や救出救助活動を展開しており、部隊の活動に使用する災害警備用装備資機材の補充や整備充実に向け、積極的な取組を推進している。災害現場等危険箇所ではICTを活用した無人の装備資機材の活用が有効であることは十分認識している。今後も実践的な災害対応訓練を継続し、捜索、救出救助技術の強化に努めるとともに、災害警備活動に有用な装備資機材の整備充実や関係機関等との一層の連携に努めていく。」旨を答弁した。2点目は、「暴力団排除活動の推進」について質問があり、本部長は、「暴力団の弱体化・壊滅は、警察だけで成し遂げられるものではなく、社会対暴力団の構図による暴力団排除活動が重要となる。県警察の総力を挙げた暴力団対策を徹底していくとともに、県、市町村、関係機関等と連携を図りながら総合的な暴力団排除活動を推進していく。」旨を答弁した。3点目は、「あおり運転対策」について質問があり、本部長は、「あおり運転は極めて悪質、危険な行為であり、大きな社会問題となっていると認識している。改正法施行後、県内では妨害運転の検挙はないが、引き続き広報啓発に努めるとともに、違反行為に対しては厳正・的確な対応で道路交通における秩序の維持を図り、安全で安心な地域社会の実現を目指していく。」旨を答弁した。

会派民主からは、鳥取市選出の坂野議員より、「県内における薬物犯の実態と取締りの状況」について質問があり、本部長は、「全国的に、昨年における薬物事犯の検挙人員は過去最多となるなど薬物情勢は依然として厳しい状況にあり、県内での検挙者も増加傾向にある。薬物事犯の検挙人員の約6割は再犯者であり、特に覚せい剤事犯の再犯者率は高い状況にある。引き続き、薬物事犯捜査とともに、薬物乱用防止講習といった広報啓発活動を推進し、供給の遮断と需要の根絶に向けた総合的な薬物対策を推進していく。」旨を答弁した。

一般質問では24名の議員が質問に立ち、警察に対しては、3名の議員から質問があった。内容は、「コロナ感染症患者等への誹謗中傷等事案が発生した場合における県との連携や対応に関すること」、「青少年育成条例改正案に関連し、県内における被害実態や青少年の健全育成活動の状況に関すること」、「横断歩道歩行者の保護対策に関すること」などであり、それぞれ本部長が答弁した。

常任委員会では3件の報告を行った。

委員

引き続き、質問に対しては県民にも分かりやすいよう丁寧な説明を行っていただきたい。

(2) 公文書開示請求等の状況（令和2年7月～9月）（警務部）

警察本部

本年7月から9月までの公文書開示請求は、公安委員会宛ての請求はなく、警察本部長宛ての請求は13件であった。また、個人情報開示請求は、公安委員会宛ての請求はなく、警察本部長宛ての請求は5件であった。

今後も条例等に基づき、適切に対応していく。

委員

公文書開示請求について、本年1月から9月までの件数は43件であり、昨年同時期の26件と比較すると増加しているが、何か理由はあるか。

警察本部

特段の理由や傾向はない。

委員

引き続き適切な対応を行っていただきたい。

(3) 女性職員活躍推進セミナーの開催結果（警務部）

警察本部

本年9月29日、警察本部において女性職員活躍推進セミナーを開催した。

これは、女性職員の活躍推進のための取組の一環として、京都府警察の女性幹部警察官を講師に招き、女性職員のキャリア形成支援や働きやすい職場環境づくりにつなげることを目的として開催した。

当日は、警察本部所属の女性職員や、女性職員を同僚、部下等にもつ男性職員が出席したほか、映像配信により各警察署でも視聴可能とした。

第1部では、講師の経験を基に、子育て期の働き方、生活と仕事の調和、キャリアアップに対する考え、幹部としてのやりがいなどについて講演をいただいた。

第2部では女性警察官との意見交換会を行い、幹部になるに当たっての不安、部下の指導に当たっての心掛けなどについて活発な意見交換が図られたと報告を受けている。

県警察の女性活躍推進のための取組は発展しているさなかであり、今後もこのような取組を続け、更に飛躍させたい。

委員

現在、女性幹部は何名いるか。

警察本部

階級としては巡査部長から初級幹部となり、女性の巡査部長、警部補は複数名いる。しかし、警察署の課長などの管理的な立場となるのは警部以上であり、現在は2名の女性警部がいる。

委員

キャリアアップを考える女性職員を後押しする内容であり、前向きになれる研修は刺激を受けると思うので、このような研修は良いと思う。県外の警察官だと、また別の視点があり、気付きもあると思う。反響も良かったようであり、これからも積極的に女性活躍のための取組を進めていただきたい。

警察本部

職員には、いろいろな方の講演を含め、研修を続けていきたいと思う。

(4) 初任科生に対する非違事案防止教養の実施（警務部）

警察本部

本年9月14日、卒業を控えた初任科第91期、16人に対し、警察官としての自覚を促し、非違事案防止の徹底を図ることを目的として教養を実施した。

内容は、監察課長による飲酒に起因する非違事案防止、警察情報の取扱い、仕事の失敗と迅速なリカバリー、健全な交際及びハラスメント防止に関することについて教養を行った。また、個別教養として、女性初任科生を対象に、ハラスメント相談窓口を担当する女性警部によるセクハラ被害防止教養を実施した。

教養後にアンケートを実施したが、内容の理解度が高かった。最も興味があった教養については、リカバリーに関するものが一番多かったほか、健全な交際についても興味を示していることが分かった。また、初任科生が考える若手の中で発生しやすい非違事案については、文書に関するものや飲酒に関するものという回答が多かった。

今回の教養は前回のアンケート結果を踏まえ、より分かりやすく、興味を持たせるよう工夫して行い、出席者からは、「リカバリーの大切さを感じることができた。」などの感想があった。今後も卒業を控えた初任科生に対する同様の教養を継続し、非違事案防止の徹底を図る。

委員

リカバリーに関する教養資料も活用したか。

警察本部

活用している。

委員

非違事案防止の研修は非常に重要であり、立派な警察官になるためにも初任科の段階で十分に理解してもらいたい。リカバリーについても、失敗時の対処法をきちんと教養していただきたい。

委員

飲酒に関することについても、非違事案が発生すれば言い訳はできないので、特に強く教養をお願いしたい。

委員

引き続き、しっかりと非違事案防止教養を行っていただきたい。併せて、何かあった場合、若手からは相談や報告をしにくい面もあると思うので、「言わないと分からない」という姿勢ではなく、上司の方から気付くという視点も持っていただきたい。日頃から人間関係を築くことで、上司や管理職が気付けることもあると思う。

(5) 鳥取市叶地内における持凶器強盗被疑事件（刑事部）

警察本部

本年10月8日午前2時12分頃、鳥取市叶地内のインターネットカフェにおいて、刃物を使用した持凶器強盗事件が発生した。

管轄の鳥取警察署では110番通報を受け、所要の捜査を行い、被疑者の犯行が明らかになったことから、同日、市内に住む30歳の男を逮捕した。

なお、本件は凶器を所持したまま被疑者が逃走した事案であり、生活安全部と連携して対応し、近隣住民等への危険意識・防犯意識を高めるため、発生直後に事件広報として報道提供した。また、被疑者の身柄を確保後は、直ちに教育委員会等へその旨の連絡を行い、登校時間帯の学校関係者や学生の不安及び負担の軽減を図った。

委員

迅速な対応により、早期検挙となり良かった。また、関係機関等への対応についてもスピーディであったと思う。

(6) 災害時における発動発電機の調達に関する協定の締結（交通部）

警察本部

台風などの災害時において停電により信号機が滅灯した場合、迅速に電源を確保して信号機を復旧させ、交通の安全と円滑を図る必要があることから、発動発

電機の調達に関する協定を締結した。

現在、県内には1,301基の信号機がある。そのうち、信号機電源付加装置という信号機に内蔵されているバッテリーで電源が確保できるものが74基、信号機と発動発電機を接続して復旧させる可搬式発電機接続対応信号機を258基整備している。そのほか、可搬式信号機を10基保有しており、必要に応じて現場に持って行き、交通整理を行う。

このように、県警察では災害時の備えとして交通安全施設の整備に取り組んでおり、可搬式発電機接続対応信号機については県警で保有する発動発電機で対応することとなるが、大規模停電発生時は発動発電機の数不足し、迅速な復旧ができないという課題があることから、本年10月6日、警察本部において、一般社団法人日本建設機械レンタル協会中国支部山陰地区部会と警察本部長との間で協定を締結した。

同部会は山陰両県で建設機械等のレンタル事業を行う事業所が会員となっており、そのうち、鳥取県内に事業所を有する会員は18事業所である。本協定により、発動発電機が必要な時は、会員が保有する発動発電機約400台のうち、既に貸出済みのものを除き優先的に借り受け可能となるため、発動発電機を調達して滅灯信号機を速やかに復旧させ、交通の安全と円滑を確保することができる。さらに、滅灯交差点で交通整理に当たっていた警察官を他の災害対応に従事させることが可能となるほか、必要な時に調達することから、予算削減及び物品管理が不要となり、業務の合理化につながるという効果が期待できる。

なお、他県警でも同様の協定を締結しているが、中四国管内では初となる。

今後、本協定を有効に活用し、災害等における大規模停電発生時には迅速に対応したい。

委員

発動発電機を借りて来ても、初めて触ったということでは、すぐに作動できないと思う。練習する機会を設けているか。

警察本部

各警察署も含め、警察では定期的に災害時の対応訓練を行っており、その際に発動発電機も操作しているため、引き続き訓練を継続したい。

委員

信号が滅灯すると交通事故の原因にもなる。コスト面も含め、非常に良い取組だと思う。

5 その他

第50回全国白バイ安全運転競技大会結果（交通部）

警察本部

本年10月10日及び11日、茨城県ひたちなか市所在の自動車安全運転センター安全運転中央研修所において、第50回全国白バイ安全運転競技大会が開催された。県警察からは2人の男性警察官が参加し、団体の部の成績は38道府県中27位、個人の成績は102人中53位が最高位であった。

委員

技術の向上が大切だと思うので、引き続き訓練を頑張ってもらいたい。

第2 その他の公安委員会活動

1 意見の聴取

運転免許課から、道路交通法に基づく意見の聴取2件について、事案概要、処分理由、当事者の陳述要旨、基本量定等を詳細に聴取し量定を決定した。

2 聴聞

運転免許課から、道路交通法に基づく聴聞1件について、事案概要、処分理由、当事者の陳述要旨、基本量定等を詳細に聴取し量定を決定した。

3 事前説明

審査請求の裁決

4 警察本部との昼食会

警察本部との昼食会に、本部長、警務部長、首席監察官の出席を求め、意見交換を行った。

5 公安委員会委員間の事前検討・協議等

6 公安委員会補佐室からの事務連絡等

公安委員会補佐室から当面の行事予定等について確認と説明があり、了承した。